

服部文祥 著『アーバンサバイバル入門』

著者の「サバイバル登山」という本を読んだのが10年近く前です。彼は長期山行に装備と食糧を極力持ち込まず、食糧を現地調達する「サバイバル登山」を始めていました。溪流で岩魚を釣り、山菜を採り、ヘビやカエルを食べるという山行です。基本的に食糧は生米と調味料のみ。テントを持たずタープを張る。更に、猟銃でシカを撃って食べ、登山を続けるというスタイルを始めたのです。シカは大きく、一人で食べ尽くすことができないので内蔵や皮などは山中に廃棄してしまうので勿体ないと思うのですが、明日を生きるために「捕って殺して食べる体験が、登山者として見る山と狩猟者として見る山は同じ山でも全然違う」と彼は言います。

「アーバンサバイバル」とは都市で猟師のような「捕って殺して食べる」を実践すること。衣食住をできるだけ自分の力で作り出すという試みです。2010年。彼は横浜の郊外に中古の95坪一戸建てを購入します。平均斜度32度の傾斜地。築45年の古屋が建っているのは20坪。残り75坪は草木ぼうぼうの荒地。でも森と繋がっている物件でした。彼は一目この物件を見て引っ越すと決めたそうです。1,980万円で購入。そしてこのサバイバルを実践しています。この本はこれらの生活を700枚の写真と50点のイラスト付きで詳しく紹介しています。

衣食住に分けて書かれていますが、食（FOOD）の項目だけ見ても驚きます。

- ・ 鶏を飼う（ニワトリにシカ肉をやると卵の味は格段に上がる）
- ・ ミツバチを飼う（自家製ハチミツは雑味がなく美味い。1万匹なら巣箱一つで飼える）
- ・ 野菜や果樹を育てる（栗・はっさく・かぼす・かき・枇杷など）
- ・ 生き物を捕まえる（みんなが食べれば外来種問題は解決する。近所で捕れる食べ物の中ではミシシッピーアカウミガメは圧倒的に美味い。蛇・ウシガエル・ザリガニなど）
- ・ 山の獲物を料理する（シカの解体の仕方・山菜、茸、岩魚の食べ方）
- ・ 魚をおろす（刃物使いの始まりであり、最終到達点）
- ・ 庭で排便する（私のウンコは今日もオーガニックか）

ハクビシンを捉えて解体する場面は印象的です。ハクビシンは私も神楽坂で見かけたことがあるくらいポピュラーな哺乳類です。彼の庭の枇杷の実を食べ家庭菜園を荒らすということで罠をかけたなら3日目にかかったそうです。解体の仕方も詳しく説明されています。ハクビシンは美味しいそうです。彼は猟期にシカを主な獲物として狩っています。狩猟でお金を稼いでいないので趣味ということになりますが、仕事以上に生きることそのものに近い活動であり、決して娯楽ではないと語ります。生きることには情熱をかける服部さんの生活の質（QOL）を高めようとする気持ちを感じる熱い本でした。（ふかざわ ゆ）

2017年5月26日刊 株式会社デコ 3,000円

